

フォローアップ(計画・実績)報告書

調査名		南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくり検討調査	
調査主体	幹事府省(庁)局課名	国土交通省河川局河川環境課	
	関係府省(庁)局課名等	農林水産省農村振興局農村環境課、国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課、農林水産省関東農政局農村計画部資源課、野田市	
調査地域		栃木県(渡良瀬遊水地エリア)、埼玉県(荒川流域エリア)、千葉県(利根運河周辺・北総・房総中部エリア)	
調査年度		平成21年度	
配分額		39,000千円	
調査概要	調査内容	南関東地域において、多様な主体が協働・連携し、かつて生息していたコウノトリ・トキを指標とした、河川や農地等の水辺環境の保全・再生方策、コウノトリ・トキの野生復帰をシンボルとした地域振興・経済活性化方策を検討し、エコロジカル・ネットワークの形成に向けた広域連携モデルづくりを目的として、関係省庁及び関係県・関係市町に有識者・民間団体代表を含めた検討委員会とエリアワーキングを開催し、今後の課題について整理を行った。	
	調査結果(成果)	関東地方整備局による河川における自然環境の保全・再生方策、関東農政局による農地における自然環境の保全・再生方策、千葉県野田市をはじめとする調査地域内の5つのエリアの地域振興・経済活性化方策の調査・検討結果を踏まえ、かつて生息していたコウノトリ・トキの野生復帰による魅力的な地域づくりのための提言、将来自標図、戦略プログラムをとりまとめ、今後に向けた基本構想を提案した。	
		調査結果の活用状況	調査結果を受けた具体化
計画	期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査の検討対象5エリアそれぞれのワーキングによる検討体制の構築予定。 ・本調査にて設置した検討委員会(5エリア合同の広域連携による協議の場)の継続開催予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査での提案を受けた事業の具体化を検討(小山市、鴻巣市、野田市、等)。 ・首都圏広域地方計画に記載された「南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト」の具現化。
	22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の継続開催。 ・河川区域内における生物調査の実施(冬季)…江戸川河川事務所、野田市 	<ul style="list-style-type: none"> ・CBD-COP10(生物多様性条約第10回締結国会議)のサイドイベントとして開催された「生物多様性国際自治体会議」において、野田市長から「野田市江川地区における自然と共生地域づくり事業—野田市から首都圏への提案」と題した報告を実施。 ・関東地方の市町村の横断的なネットワーク化を図る『コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム』が組織される。
フォローアップ	23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の継続開催。 ・生物調査の実施(夏季)…江戸川河川事務所、野田市、いすみ市 ・生物調査の実施(秋期)…荒川上流河川事務所 ・生物調査の実施(冬季)…利根川上流河川事務所、小山市、野田市、いすみ市 ・利根運河周辺エリア、荒川流域エリア、渡良瀬遊水地エリアでワーキング(勉強会)を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野田市において、コウノトリの飼育可能性についての具体的な検討を実施(コウノトリの生息域外保全・野生復帰に関する有識者会議が設置される)。 ・国土交通省より「持続可能で活力ある国土・地域づくり」に向けた主要政策の柱(4つの価値、8つの方向性)が示され、「水とみどりのエコロジカル・ネットワーク形成」が位置付けられる。
	24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の継続開催。 ・生物調査の実施(春期)…小山市、野田市、いすみ市 ・生物調査の実施(夏期)…利根川上流河川事務所、荒川上流河川事務所、鴻巣市 ・生物調査の実施(秋期)…利根川上流河川事務所、野田市 ・生物調査の実施(冬期)…小山市、鴻巣市、いすみ市 ・利根運河周辺エリア、荒川流域エリア、渡良瀬遊水地エリアでワーキング(勉強会)を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会において、平成25年度から実行・実現の段階に向けた推進協議会へ移行すること及び3つの専門部会を設置することが決定。 ・野田市において、コウノトリのつがいの飼育(生息域外保全)を開始。
総括的評価		<p>調査目的の達成状況とその要因</p> <p>今回の調査を踏まえ、「1. 検討委員会・提言及び推進の基本方針」、「2. 将来像図」、「3. 戦略プログラム」が作成された。また、関係省庁と千葉県、埼玉県、栃木県、野田市、小山市、鴻巣市等の自治体、学識者、民間団体代表で構成される検討委員会を継続的に開催し、関東広域の交流・連携が一層推進された。また、各エリアの関係機関において生物調査や勉強会等が実施され、事業の具体化に向けた取組が進められた。先行的に取組が進んでいる野田市においてはコウノトリの飼育が開始される等、放鳥に向けた交流・連携が一層推進された。よって、当初の期待された効果は達成されたと考えられる。</p> <p>調査手法の妥当性</p> <p>国交省が中心となり各機関と連携して調査するとともに、各エリア毎のワーキングの開催や対象エリア全てが参加した検討委員会を開催する事で広域的な連携による取組を進める事ができた。なお、本調査における検討内容については国交省の所掌外の分野に関する項目も含まれていたため、関係機関との役割分担等の調整に苦慮する面もあったが、最終的には関係者の連携により対処することができた。よって、調査手法は妥当であったと考えられる。</p>	